

Microsoft® System Center Configuration Manager 用 Dell™ Lifecycle Controller Integration バージョン 1.1 ユーザーズガイド

[本書について](#)

[概要](#)

[セットアップと使用方法](#)

備考

 **メモ:** コンピュータを使いやすくするための重要な情報を説明しています。

本書の内容は予告なく変更されることがあります。
© 2010 Dell Inc. 無断転載を禁じます。

Dell Inc. の書面による許可のない複製は、いかなる形態においても厳重に禁じられています。

本書で使用されている商標: *Dell*、および *Dell OpenManage* は Dell Inc. の商標です。*Microsoft*、*Windows*、および *Windows Server* は 米国およびその他の国における Microsoft Corporation の商標または登録商標です。

商標または製品の権利を主張する事業体を表すためにその他の商標および社名が使用されていることがあります。それらの商標や会社名は、一切 Dell Inc. に帰属するものではありません。

2010 年 4 月

[目次ページに戻る](#)

本書について

Microsoft® System Center Configuration Manager 用 Dell™ Lifecycle Controller Integration バージョン 1.1 ユーザーズガイド

この文書では、Microsoft® System Center Configuration Manager 用 Dell™ Lifecycle Controller Integration (ConfigMgr 用 DLCI) の使用方法と機能について説明します。

Microsoft System Center Configuration Manager (ConfigMgr) のインストール、特徴、機能などの詳細については、Microsoft TechNet のサイト technet.microsoft.com を参照してください。

本書のほかにも、参考になる製品ガイドやホワイトペーパーが掲載されています。

以下のガイドは、Dell サポートのウェブサイト (support.dell.com/manuals) で入手できます。

- 1 『Microsoft System Center Configuration Manager 用 Dell Server Deployment Pack ユーザーズガイド』は、Dell Deployment Pack の設定と使用について包括的な情報を提供しています。
- 1 『Dell Lifecycle Controller ユーザーズガイド』は、システムのローカル管理と、ネットワークを介したリモート管理について包括的な情報を提供しています。
- 1 『Integrated Dell Remote Access Controller 6 ユーザーズガイド』は、管理システムと管理下システムで Integrated Dell Remote Access Controller 6 (iDRAC6) をインストール、設定、保守する方法について説明しています。

www.delltechcenter.com には、以下のホワイトペーパーが掲載されています。

- 1 『Dell Lifecycle Controller Remote Services 概略』は、Dell Lifecycle Controller リモートサービスの特徴、機能、使用方法について、包括的な情報を提供しています。
- 1 『Dell Lifecycle Controller Web Services Interface ガイドライン』は、Web Services Management (WS-MAN) を使用してオペレーティングシステムを導入する方法について説明しています。
- 1 『Dell Auto-Discovery Network Setup 仕様書』は、自動検出、エラーメッセージ、説明、対応処置などについて説明しています。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

概要

Microsoft® System Center Configuration Manager 用 Dell™ Lifecycle Controller Integration バージョン 1.1 ユーザーズガイド

- [機能と特徴](#)
- [このリリースの新機能](#)

この章では、Microsoft® System Center Configuration Manager 用 Dell™ Lifecycle Controller Integration(ConfigMgr 用 DLCI)の概要を説明します。

ConfigMgr 用 DLCI の主な機能は以下のとおりです。

- 1 ネットワーク上の iDRAC 搭載システムの自動検出
- 1 実行前環境(PXE)への依存性の除去
- 1 Lifecycle Controller または ConfigMgr リポジトリからのドライバの使用
- 1 vFlash と ネットワーク ISO を使用したオペレーティングシステムのリモート導入
- 1 Task Viewer(タスクビューア)コンポーネントによる実行タスク状態のメンテナンス

機能と特徴

自動検出とハンドシェイク

自動検出機能を使用すると、Dell Provisioning Server を統合した管理コンソールによって、ネットワーク上のプロビジョニングされていない iDRAC 搭載システムの自動検出と資格情報の管理ができます。ConfigMgr 用 DLCI は ConfigMgr 内でプロビジョニングサーバーを統合します。

 **メモ:** ConfigMgr 用 DLCI は、フレックスアドレス指定を使用しているモジュラシステムの自動検出はサポートしていません。

iDRAC 搭載システムが検出されると、ConfigMgr コンソールの **コンピュータの管理** → **コレクション** に **すべての Dell Lifecycle Controller サーバー** というコレクションが作成されます。コレクション内には、次の 2 つのサブコレクションがあります。

- 1 **管理下 Dell Lifecycle Controller(OS 導入済み)**
- 1 **管理下 Dell Lifecycle Controller(OS 不明)**

検出された iDRAC 搭載システムにオペレーティングシステムが導入された後、システムは **管理下 Dell Lifecycle Controller(OS 不明)** から **管理下 Dell Lifecycle Controller(OS 導入済み)** に移行します。

PXE 依存性の除去

PXE 依存性の除去機能を使用すると、iDRAC 搭載システムのコレクションを、共通インターネットファイルシステム(CIFS)共有にあるタスクシーケンス ISO に従って起動できます。CIFS 共有にあるこの ISO にアクセスするには、資格情報を入力する必要があります。

ドライバの保守

ConfigMgr 用 DLCI のドライバメンテナンス機能を使用すると、特定のオペレーティングシステムのインストール時に、Lifecycle Controller に内蔵されているドライバを使用したり、必要な場合には、ConfigMgr コンソールへのフォールバックも可能です。また、Lifecycle Controller に依存せずに、コンソールのリポジトリからドライバを選択できます。

リモートオペレーティングシステム導入

オペレーティングシステムのリモートインストールは、自動検出された iDRAC 搭載システムに、ターゲットオペレーティングシステムの無人インストールを実行する機能を提供します。この機能の一部として、プレオペレーティングシステムイメージがネットワーク上の仮想メディアとしてマウントされ、ターゲットのホストオペレーティングシステムのドライバは ConfigMgr コンソールのリポジトリまたは Lifecycle Controller から適用できます。Lifecycle Controller からドライバを選択した場合、サポートされるオペレーティングシステムのリストは、iDRAC でフラッシュされた最新のドライバパックに基づきます。また、ISO イメージを vFlash SD カードにダウンロードして、その ISO イメージからシステムを起動することもできます。

 **メモ:** vFlash 機能は、iDRAC バージョン 1.3 以降のファームウェアを搭載したラックとタワーサーバー、または iDRAC バージョン 2.2 以降を搭載したブレードサーバー上でしか使用できません。

オペレーティングシステムのリモート導入および vFlash 上のオペレーティングシステムイメージからのステージングと起動の詳細については、デルサポートサイト support.dell.com/manuals の『Dell Lifecycle Controller ユーザーガイド』を参照してください。

Task Viewer(タスクビューア)

Task Viewer は、タスクバー内に隠れて、ConfigMgr 用 DLCI の処理タスクを実行する非同期タスク実行コンポーネントです。オペレーティングシステムの導入など、長時間かかるタスクはすべて

Task Viewer で実行されます。タスクはキューに入れられ、一度に 20 ずつ実行されます。残りのタスクは、実行中のタスクの完了待ちになります。提出された順にキューに入れられ、その順に実行されます。キュー内に現在あるタスクとそれらの状態を表示するには、タスクバーにある Dell アイコンをクリックして Task Viewer を実行します。

このリリースの新機能

このリリースには、次のような新機能があります。

- 1 サイトサーバーからの Dell Provisioning Service の個別インストール
 - 1 ISO のステージングと vFlash からの再起動
 - 1 Microsoft System Center Configuration Manager (ConfigMgr) 2007 R2\SP2 のサポート
 - 1 ConfigMgr 管理コンソールのサポート
 - 1 セキュリティ用 GUI ベースの Dell プロビジョニング設定
-

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

セットアップと使用方法

Microsoft® System Center Configuration Manager 用 Dell™ Lifecycle Controller Integration バージョン 1.1 ユーザーズガイド

- [作業を開始する前に](#)
- [インストールとアンインストール](#)
- [一般的なユーザーシナリオ](#)
- [追加機能](#)
- [トラブルシューティング](#)

この章では、Microsoft® System Center Configuration Manager 用 Dell™ Lifecycle Controller Integration (ConfigMgr 用 DLCI) を使用するためのソフトウェアの前提条件と必要条件について説明します。また、プラグインのインストールとアンインストールの手順、およびコンソールの一般的な使用例についても記載しています。

作業を開始する前に

ConfigMgr 用 DLCI を使用するには、Microsoft System Center Configuration Manager 用 Dell Server Deployment Pack (ConfigMgr 用 DSDP) バージョン 1.2 以降を使用してオペレーティングシステムを導入する方法についての知識が必要です。

 **メモ:** デルサポートサイト support.dell.com/manuals にある『Microsoft® System Center Configuration Manager 用 Dell™ Server Deployment Pack ユーザーズガイド』をお読みください。

検出とハンドシェイクに使うアカウントの設定

Provisioning Server 用のシステム管理者アカウントを使って ConfigMgr サーバーにアクセスしない場合は、次の手順で最小ユーザー権限を設定します。

1. ドメインにユーザーアカウントを作成します。Dell Provisioning Server は、データ検出レコード (DDR) をサイトサーバーの受信箱に書き込むときにこのアカウントになりますので、これはドメインアカウントでなければなりません。
2. ConfigMgr 用に次のユーザー権限を与えます。
 - 1 コレクション - 読み取り、変更、作成
 - 1 サイト - 読み取り、コンピュータ入力のインポート

3. 次の手順で、Windows Management Instrumentation (WMI) にリモートアクセスするためのユーザー設定を行います。

 **メモ:** システムのファイアウォールが WMI への接続をブロックしないことを確認してください。

- a. DCOMCNFG.exe を使って、リモートからこのシステムの **分散 COM** に必要な Dell Provisioning Server のユーザー権限を与えます。
 - i. ConfigMgr コンソールの左ペインで、**コンピュータ** を右クリックして **プロパティ** を選択します。
 - ii. **COM セキュリティ** タブで、**制限の編集** をクリックし、**ローカルからの起動**、**リモートからの起動**、**リモートからのアクティブ化** 権限を追加します。
 - iii. **起動とアクティブ化のアクセス許可** で **リモートからの起動** と **リモートからのアクティブ化** を選択します。
 - iv. **アクセス許可** で **リモートアクセス** を選択します。
- b. DCOMCNFG.exe を使って、**分散 COM Windows Management and Integration (WMI)** コンポーネントに必要な Dell Provisioning Server のユーザー権限を与えます。
 - i. **マイ コンピュータ** を展開して、**分散 COM** を展開します。
 - ii. **Windows Management and Integration** を右クリックして、**プロパティ** を選択します。
 - iii. **セキュリティ** タブを開きます。
 - iv. **起動とアクティブ化のアクセス許可** で **リモートからの起動** と **リモートからのアクティブ化** を選択します。
- c. WMI MGMT.msc を使って、**ROOT\SMS\Site_<サイトコード>** **名前空間** に **メソッドの実行**、**プロバイダによる書き込み**、**アカウントの有効化**、**リモートの有効化** ユーザー権限を与えます。または、ConfigMgr で作成したとき、ConfigMgr ユーザーは **SMS_Admin** グループのメンバーになるため、グループの既存の権限に **リモートの有効化** を追加することもできます。
- d. Dell Provisioning Server から、次の手順でアカウントの権限を検証します。
 - i. **WBEMTest** を使って、WMI 経由でサイトサーバーに接続できることを確認します。

 **メモ:** **Site_<サイトコード>** **名前空間** に接続するときに、**認証レベル** グループボックスで **パケットブライパシー** を必ず選択してください。

- ii. 接続を確立した後、**"Select*from SMS_Site"** クエリを実行します。権限が正しく割り当てられると、このコマンドはサイトコードを含むレコードを返します。

4. DDR 受信箱にファイルを書き込むための共有とフォルダ権限を与えます。
 - a. ConfigMgr コンソールの **コンピュータ管理** の下で、**SMS_<サイトコード>** **共有** への書き込みユーザー権限を与えます。
 - b. **ファイルエクスプローラ** を使って、共有場所 **SMS_<サイトコード>** **共有** に移動し、**ddm.box** フォルダに移動します。ドメインユーザーにフルアクセス権を与えます。
 - c. ユーザーの資格情報を使って Dell Provisioning Server から一時的にドライブにマッピングし、新しいファイルを作成してから書き込み、変更して、削除することでこれらの権限を確認します。

ソフトウェアの前提条件と要件

- 1 システムに次のアプリケーションをインストールします。
 - 1 Microsoft System Center Configuration Manager 2007 (ConfigMgr) R2/SP2。ConfigMgr をダウンロードしてインストールする方法の詳細については、Microsoft TechNet のサイト technet.microsoft.com を参照してください。
 - 1 ConfigMgr 用 Dell Server Deployment Pack。DSDP for ConfigMgr のインストール方法の詳細については、『Microsoft System Center Configuration Manager 用 Dell Server Deployment Pack ユーザーズガイド』を参照してください。
 - 1 Microsoft .NET バージョン 3.5 SP1。
 - 1 プロビジョニングサーバーが Microsoft Windows 2003 オペレーティングシステムで実行しているシステムには Windows リモート管理 (WinRM)。
 - 1 ユーティリティ `regsvr32.exe` と `icacls.exe`。

 **メモ:** `regsvr32.exe` はデフォルトでシステムにインストールされています。`icacls.exe` は、Microsoft KB 技術情報 947870 の修正プログラムを適用すると更新されます。この修正プログラムは Microsoft のサポートサイト support.microsoft.com から入手できます。

- 1 Provisioning Server をインストールする Microsoft Windows 2003 に Microsoft KB 技術情報 947870 の修正プログラムを適用します。この修正プログラムは Microsoft のサポートサイト support.microsoft.com から入手できます。
- 1 Microsoft KB 技術情報 936059 の WS-Management バージョン 1.1 パッケージをインストールします。このパッケージは Microsoft のサポートサイト support.microsoft.com から入手できます。
- 1 システムに 40 MB 以上の空きディスク容量があることを確認してください。

必要条件の詳細については、デルのサポートウェブサイト support.dell.com/manuals に掲載されている『Microsoft® System Center Configuration Manager 用 Dell™ Server Deployment Pack ユーザーズガイド』を参照してください。

コンポーネント別のソフトウェア前提条件と要件については、「[コンポーネント別の要件](#)」の項を参照してください。

サポートされているシステムとオペレーティングシステム

サポートされているシステムとサイトサーバー、Dell Provisioning Server、ConfigMgr 管理コンソールのオペレーティングシステムについては、デルサポートサイト support.dell.com/manuals にある `readme.txt` を参照してください。

インストールとアンインストール

この項では、ConfigMgr 用 DLCI のインストールとアンインストールの手順を説明します。ConfigMgr 用 DLCI は、Dell Lifecycle Controller ユーティリティと Dell Provisioning Server の 2 つのコンポーネントで構成されます。現在のサーバーに全機能をインストールするには、**完全** オプションを使用します。サイトサーバーまたは管理コンソール上に Dell Lifecycle Controller ユーティリティをインストールし、他のサーバーまたは管理コンソールに Dell Provisioning Server をインストールするには、**カスタム** オプションを使用します。

コンポーネント別の要件

ConfigMgr 用 DLCI は、インストールする前に以下の要件を確認します。

初期設定

- 1 オペレーティングシステムが Microsoft Windows 2003 SP1 以降である
- 1 `Regsvr32.exe` が存在する
- 1 Microsoft .NET バージョン 3.5 SP1 がインストールされている
- 1 最新の WinRM がインストールされている

Dell Lifecycle Controller ユーティリティ

- 1 インストール先がプライマリサイトサーバーまたは ConfigMgr 管理コンソール
- 1 Dell Server Deployment Pack 1.1 以降がインストールされている
- 1 Windows Automation Install Kit (Windows AIK) がインストールされている

Dell Provisioning Server

- 1 オペレーティングシステムがワークステーションでない
- 1 オペレーティングシステムが Microsoft Windows 2003 64 ビットでない

- 1 オペレーティングシステムが Microsoft Windows 2003 SP2 以降である
- 1 Internet Information Services 6 (IIS6) または IIS7 がインストールされている
- 1 IIS7 で IIS WMI 互換性が有効になっている
- 1 IIS7 で IIS6 WMI Metabase 互換性が有効になっている
- 1 icacls.exe が存在する

 **メモ:** Dell Provisioning Server は Microsoft Windows 2008 R2 オペレーティングシステムと IIS バージョン 7.5 をサポートしていません。

ConfigMgr 用 DLCI のインストール

 **メモ:** あるコンポーネントをインストールした後、別のコンポーネントをインストールする必要がある場合は、既存のコンポーネントをアンインストールしてから必要なコンポーネントを再インストールしてください。

 **メモ:** インストールを始める前に、「[ソフトウェアの前提条件と要件](#)」を一読することをお勧めします。

 **メモ:** インストール中にシステムのディスク容量が足りなくなった場合は、ディスクの容量不足を知らせるメッセージが表示されます。インストールを中止し、必要なディスク容量を確保してから再試行することをお勧めします。

 **メモ:** ConfigMgr 用 DLCI はバージョン 1.0 からバージョン 1.1 への直接アップグレードはサポートしていません。バージョン 1.0 をアンインストールしてからバージョン 1.1 をインストールしてください。

以下の手順に従って、ConfigMgr 用 DLCI をインストールします。

1. デルサポートサイト support.dell.com → [ドライバとダウンロード](#) にアクセスします。
2. お使いのオペレーティングシステム対応の .msi パッケージをシステムのローカルドライブにダウンロードします。
3. DLCI_1.1.0_Axx.zip (xx は DLCI バージョン番号) をダウンロードします。

 **メモ:** ConfigMgr 用 DLCI をユーザーアクセスコントロール (UAC) が有効になっているシステムにインストールする場合は、**管理者として実行** で MSI ファイルを起動します。詳細については、「[UAC 対応システムへのインストール](#)」を参照してください。

4. システムのローカルドライブに zip ファイルを解凍して、.msi パッケージを見つけます。
5. .msi パッケージをダブルクリックします。**よろこび** 画面が表示されます。
6. **次へ** をクリックします。使用許諾契約書 ウィンドウが表示されます。
7. ライセンス契約に同意し、**次へ** をクリックします。**設定の種類** 画面が表示されます。
8. 次のオプションのいずれかを選択します。
 - 1 **完全** - 全機能をインストールする場合に選択します。詳細については、「[完全インストール](#)」を参照してください。
 - 1 **カスタム** - Dell Lifecycle Controller ユーティリティまたは Dell Provisioning Server、あるいはその両方をインストールする場合に選択します。詳細については、「[カスタムインストール - Dell Lifecycle Controller ユーティリティと Dell Provisioning Server](#)」、「[カスタムインストール - Dell Lifecycle Controller ユーティリティのみ](#)」、「[カスタムインストール - Dell Provisioning Server のみ](#)」を参照してください。

完全インストール

次の手順で、サーバーオペレーティングシステム上で実行しているサイトサーバーまたは管理コンソールに ConfigMgr 用 DLCI をインストールします。対応オペレーティングシステムのリストは、デルサポートサイト support.dell.com にある [Readme](#) をご覧ください。

1. 「[ConfigMgr 用 DLCI のインストール](#)」の項の [手順 1](#) ~ [手順 8](#) に従ってください。
2. **完全** オプションを選択して **次へ** をクリックします。ConfigMgr **アクセス用 Dell Lifecycle Controller ユーティリティのユーザー資格情報** 画面が開きます。
3. サイトサーバー上で、ユーザー名とパスワードを入力して **次へ** をクリックします。この情報は、新しく検出された iDRAC 搭載システムすべてにプロビジョニングされます。
または
IIS 搭載の ConfigMgr 管理コンソール上で、プライマリサイトサーバー名、ユーザー名、パスワードを入力して **次へ** をクリックします。この情報は、新しく検出された iDRAC 搭載システムすべてにプロビジョニングされます。
4. ConfigMgr の資格情報を入力して、**次へ** をクリックします。**プログラムのインストール準備完了** ウィンドウが表示されます。
5. **インストール** をクリックします。画面にインストールの進行状況が表示されます。インストールが完了すると、「**InstallShield ウィザードを完了しました**」というメッセージが表示されます。
6. **完了** をクリックしてウィザードを閉じます。

ConfigMgr 用 DLCI のインストールに成功しました。

 **メモ:** インストール過程で、インターネット情報サービス (IIS) の下にプロビジョニングウェブサイトが作成され、設定されます。プロビジョニングサーバーの手動設定については、「[IIS 用 Dell プロビジョニングウェブサービスの設定](#)」を参照してください。

カスタムインストール - Dell Lifecycle Controller ユーティリティと Dell Provisioning Server

1. 「[ConfigMgr 用 DLCI のインストール](#)」の項の [手順 1](#) ~ [手順 8](#) に従ってください。
2. **カスタム** オプションを選択し、**次へ** をクリックします。
3. **カスタムセットアップ** 画面で、Dell Lifecycle Controller ユーティリティと Dell Provisioning Server を選択し、**次へ** をクリックします。**カスタムセットアップの確認** 画面が開いて、選択したコンポーネントが表示されます。
4. **次へ** をクリックします。ConfigMgr アクセス用 Dell Lifecycle Controller ユーティリティの**ユーザー資格情報** 画面が開きます。
5. サイトサーバー上で、ユーザー名とパスワードを入力して **次へ** をクリックします。この情報は、新しく検出された iDRAC 搭載システムすべてにプロビジョニングされます。
または
IIS 搭載の ConfigMgr 管理コンソール上で、プライマリサイトサーバー名、ユーザー名、パスワードを入力して **次へ** をクリックします。この情報は、新しく検出された iDRAC 搭載システムすべてにプロビジョニングされます。
6. iDRAC **アクセス用 Dell Lifecycle Controller ユーティリティのユーザー資格情報** 画面で、帯域外コントローラ管理用のユーザー名とパスワードを入力します。このアカウントは iDRAC にプロビジョニングされます。
 **メモ:** この画面は、ConfigMgr 用 DLCI をサイトサーバーにインストールするときのみ表示されます。
7. **次へ** をクリックします。**プログラムインストールの準備完了** 画面が表示されます。
8. **インストール** をクリックします。画面にインストールの進行状況が表示されます。インストールが完了すると、「InstallShield ウィザードを完了しました」というメッセージが表示されます。
9. **完了** をクリックしてウィザードを終了します。

カスタムインストール - Dell Lifecycle Controller ユーティリティのみ

コンポーネント別の要件については、「[コンポーネント別の要件](#)」の項を参照してください。

 **メモ:** Dell Lifecycle Controller ユーティリティは、サイトサーバーまたは管理コンソールにインストールできます。管理コンソール上で使用する前に、サイトサーバーに Dell Lifecycle Controller ユーティリティを必ずインストールしてください。

次の手順で、Dell Lifecycle Controller ユーティリティのみをインストールします。

1. 「[ConfigMgr 用 DLCI のインストール](#)」の項の [手順 1](#) ~ [手順 8](#) に従ってください。
2. **カスタム** オプションを選択します。
3. **カスタムセットアップ** 画面で、Dell Lifecycle Controller ユーティリティを選択し、**次へ** をクリックします。
4. **カスタムセットアップの確認** 画面が開いて、選択したコンポーネントが表示されます。**次へ** をクリックします。
5. iDRAC **アクセス用 Dell Lifecycle Controller ユーティリティのユーザー資格情報** 画面で、帯域外コントローラ管理用のユーザー名とパスワードを入力します。このアカウントは iDRAC にプロビジョニングされます。
6. **次へ** をクリックします。**プログラムインストールの準備完了** メッセージが表示されます。
 **メモ:** この画面は、ConfigMgr 用 DLCI をサイトサーバーにインストールするときのみ表示されます。
7. **インストール** をクリックします。画面にインストールの進行状況が表示されます。インストールが完了すると、「InstallShield ウィザードを完了しました」というメッセージが表示されます。
8. **完了** をクリックしてウィザードを終了します。

カスタムインストール - Dell Provisioning Server のみ

コンポーネント別の要件については、「[コンポーネント別の要件](#)」の項を参照してください。

次の手順で、Dell Provisioning Server のみをインストールします。

1. 「[ConfigMgr 用 DLCI のインストール](#)」の項の [手順 1](#) ~ [手順 8](#) に従ってください。
2. **カスタム** オプションを選択します。
3. **カスタムセットアップ** 画面で、Dell Provisioning Server を選択し、**次へ** をクリックします。
4. **カスタムセットアップの確認** 画面が開いて、選択したコンポーネントが表示されます。**次へ** をクリックします。
5. ConfigMgr **アクセス用 Dell Lifecycle Controller ユーティリティのユーザー資格情報** 画面で、プライマリサイトサーバー名または IP アドレス、ユーザー名、パスワードを入力して、**次へ** をクリックします。**プログラムインストールの準備完了** 画面が表示されます。
6. **インストール** をクリックします。画面にインストールの進行状況が表示されます。インストールが完了すると、「InstallShield **ウィザードを完了しました**」というメッセージが表示されます。
7. **完了** をクリックしてウィザードを終了します。

UAC 対応システムへのインストール

ConfigMgr 用 DLCI を UAC が有効になっているシステムにインストールするには、次の手順に従います。

1. **コマンドプロンプト** を右クリックし、**管理者として実行** を選択します。
2. MSI ファイルに移動してダウンロードします。

サイトサーバー上で Dell Lifecycle Controller ユーティリティ機能をインストール/アンインストールするために最小限必要な権限:

- 1 ローカルシステム管理者またはサーバードメイン管理者。
 - 1 UAC が有効になっている Microsoft Windows 2008 オペレーティングシステムで**管理者として実行** を使ってコマンドプロンプトから MSI ファイルを起動します。
- 1 ConfigMgr で最小限必要な権限:
 - 1 サイト = 読み取り
 - 1 パッケージ = 読み取り、削除、作成

ConfigMgr 用 DLCI のアンインストール

ConfigMgr 用 DLCI をアンインストールするには、以下の手順を実行します。

Microsoft Windows Server 2003 の場合:

1. **スタート** → **コントロールパネル** → **プログラムの追加と削除** の順に選択します。
2. Dell Lifecycle Controller Integration 1.1 を選択し、**削除** をクリックします。
3. 画面の説明に従ってアンインストールを完了します。

または、.msi をダブルクリックして、**削除** を選択し、画面の指示に従います。

Microsoft Windows Server 2008 の場合

1. **スタート** → **コントロールパネル** → **プログラムと機能** の順にクリックします。
2. Dell Lifecycle Controller **ユーティリティ 1.1** を選択し、**アンインストール** をクリックします。
3. 画面の指示に従ってアンインストールを完了します。

または、.msi をダブルクリックして、**削除** を選択し、画面の指示に従います。

ConfigMgr 用 DLCI の修復

ConfigMgr 用 DLCI を修復するには、以下の手順を実行します。

1. 最初に ConfigMgr 用 DLCI をインストールするときに使用した .msi パッケージをダブルクリックします。**ようこそ** 画面が表示されます。
2. **プログラムのメンテナンス** 画面で **修復** を選択し、**次へ** をクリックします。**プログラム修復の準備完了** 画面が表示されます。
3. **インストール** をクリックします。画面にインストールの進行状況が表示されます。インストールが完了すると、「InstallShield ウィザードを完了しました」というメッセージが表示されます。
4. **完了** をクリックしてインストール作業を終了します。

一般的なユーザーシナリオ

この項では、iDRAC 搭載システムを検出して、オペレーティングシステムをリモート導入する標準的なシナリオを提供します。検出され認証された iDRAC 搭載システムに、リモートからオペレーティングシステムを導入するには、以下の手順を踏む必要があります。

 **メモ:** checkCertificate の値はデフォルトで true に設定されています。証明書を使用しない場合は、checkCertificate の値を必ず false に設定してください。詳細については、「[セキュリティの設定](#)」を参照してください。

1. システムが自動検出され、コレクションに表示されることを確認します。自動検出の詳細については、「[自動検出とハンドシェイク](#)」の項を参照してください。
2. タスクシーケンスを作成します。タスクシーケンスの作成については、『Microsoft System Center Configuration Manager 用 Dell Server Deployment Pack ユーザーズガイド』を参照してください。

 **メモ:** オペレーティングシステムの導入中に Lifecycle Controller からドライバを適用する場合は、**ドライバを Lifecycle Controller から適用する** チェックボックスをオンにします。

3. タスクシーケンスのメディアを作成します。詳細については、「[タスクシーケンスメディアの作成\(起動 ISO\)](#)」を参照してください。
4. iDRAC 搭載システムが含まれているコレクションのタスクシーケンスをアドバタイズします。タスクシーケンスのアドバタイズについては、『Microsoft System Center Configuration Manager 用 Dell Server Deployment Pack ユーザーズガイド』を参照してください。
5. Lifecycle Controller の起動メディアを作成します。これは、導入が無人で実行されるようにタスクシーケンスのメディアを変更します。詳細については、「[Lifecycle Controller 起動メディアの作成](#)」を参照してください。
6. タスクシーケンスにドライバを適用します。詳細については、「[タスクシーケンスへのドライバの適用](#)」を参照してください。
7. **設定ユーティリティ** を起動して、オペレーティングシステムをコレクションに展開します。詳細については、「[リモートからのオペレーティングシステムの導入](#)」を参照してください。

タスクシーケンスメディアの作成(起動 ISO)

タスクシーケンスのメディアを作成するには、以下の手順を実行します。

1. ConfigMgr コンソールの **コンピュータの管理** → **オペレーティングシステムの導入** で、**タスクシーケンス** を右クリックし、**タスクシーケンスメディアの作成** を選択します。**タスクシーケンスメディアの作成** ウィザードが表示されます。

 **メモ:** このウィザードを開始する前に、すべての配布ポイントで起動イメージの管理とアップデートを行います。

2. **起動メディア** を選択し、**次へ** をクリックします。
3. **CD/DVD セット** を選択し、**参照** をクリックして、ISO イメージの保存場所を選択します。**次へ** をクリックします。
4. **メディアをパスワードで保護する** チェックボックスをオフにし、**次へ** をクリックします。
5. 起動イメージ、Dell PowerEdge Server Deployment Boot Image を参照して選択します。ドロップダウンメニューから配布ポイントを選択し、**子サイトの配布ポイントを表示する** チェックボックスをオンにします。
6. **次へ** をクリックします。**概要** 画面にタスクシーケンスのメディアに関する情報が表示されます。
7. **次へ** をクリックします。プログレスバーにタスクシーケンスのメディアの作成状況が表示されます。
8. **終了** をクリックして**タスクシーケンスメディアの作成を完了** します。

これでタスクシーケンスのメディアを作成できました。

Lifecycle Controller 起動メディアの作成

オペレーティングシステムをリモートから導入するには、Lifecycle Controller の起動メディアを作成します。Lifecycle Controller の起動メディアを作成するには、以下の手順を実行します。

1. ConfigMgr コンソールの左ペインから、**コンピュータの管理** → **コレクション** の順に選択し、すべての Dell Lifecycle Controller サーバーを右クリックして **Dell Lifecycle Controller** → **Config ユーティリティの起動** を選択します。

 **メモ:** 設定ユーティリティ はどのコレクションのものでも起動できます。

2. Dell Lifecycle Controller **設定ユーティリティ** ウィンドウが開きます。ウィンドウの左ペインに以下のタスクが表示されます。

- 1 Lifecycle Controller 起動メディアの新規作成
- 1 WinPE の設定と再起動
- 1 Lifecycle Controller との通信の検証
- 1 Lifecycle Controller の資格情報の変更

3. デフォルトの選択は **Lifecycle Controller 起動メディアの新規作成** です。作成した起動 ISO を参照して選択します。起動イメージの作成方法については、[「タスクシーケンスメディアの作成\(起動ISO\)」](#)を参照してください。

4. Dell Lifecycle Controller の起動メディアを保存する場所のパスを指定します。

 **メモ:** 起動メディアはローカルドライブに保存してから、必要に応じてネットワーク上の場所にコピーすることをお勧めします。

5. **作成** をクリックします。

これで起動メディアを作成できました。

タスクシーケンスへのドライバの適用

導入するオペレーティングシステムに応じて、Lifecycle Controller または ConfigMgr のリポジトリからドライバを適用します。ConfigMgr リポジトリ内のドライバを使用できます。

Lifecycle Controller からのドライバの適用

ドライバを Lifecycle Controller から適用するには、以下の手順を実行します。

1. ドライバを Lifecycle Controller から公開するタスクシーケンスを編集します。編集するには、タスクシーケンスを右クリックし、**編集** を選択して **タスクシーケンスエディタ** を開きます。追加 → **Dell 導入** → **ドライバを Lifecycle Controller から適用する** の順にクリックして **次へ** をクリックします。

既存のタスクシーケンスがない場合は、新規作成します。タスクシーケンスの作成については、『Microsoft System Center Configuration Manager 用 Dell Server Deployment Pack ユーザーズガイド』を参照してください。

 **メモ:** この手順では、ConfigMgr の **ドライバパッケージの適用** または **ドライバの自動適用** のステップを含める準備の手順が必要です。これらのステップの 1 つがタスクシーケンスの条件で設定されていることを確認します。準備の手順の条件を設定する方法については、[「フォールバックステップ条件の表示」](#)の項を参照してください。

2. タスクシーケンスで参照されているオブジェクトのうち見つからないものが一覧となったメッセージが表示されます。OK をクリックして、このメッセージを閉じます。

3. **オペレーティングシステムのイメージを適用する** を選択します。

4. **キャプチャしたイメージからオペレーティングシステムを適用する** で、イメージパッケージとイメージを再選択して確認します。

5. **カスタムインストールに無人またはシステムが用意した回答ファイルを使用する** チェックボックスをオフにします。

6. **Windows 設定の適用** を選択します。ライセンスするモデル、プロダクトキー、システム管理者パスワード、タイムゾーンを入力します。

 **メモ:** デフォルトのオプションは、システム管理者パスワードのランダム生成です。このオプションでは、システムをドメインに加入しなければ、システムにログインできない可能性があります。または、**アカウントを有効にしてローカル管理者のパスワードを指定する** オプションを選択して、システム管理者のパスワードを入力することもできます。

7. **Dell Lifecycle Controller からドライバを適用する** を選択し、ドロップダウンリストからオペレーティングシステムを選択します。

8. ConfigMgr コンソールにアクセスするためのシステム管理者の資格情報を使用してユーザー名とパスワードを入力します。

9. **ドライバパッケージの適用** を選択します。**参照** をクリックして、ConfigMgr で使用可能なドライバパッケージのリストからドライバパッケージを選択します。

 **メモ:** 導入するハードウェアとオペレーティングシステムによっては、大量ストレージドライバを選択してオペレーティングシステムを正しく導入する必要があります。たとえば、Microsoft Windows 2003 オペレーティングシステムでは、Serial Attached SCSI (SAS) または PowerEdge Expandable RAID Controllers (PERC) 用の互換ドライバが提供されて

いません。

10. **OK** をクリックして **タスクシーケンスエディタ** を終了します。
11. 編集したタスクシーケンスをアドバタイズします。タスクシーケンスをアドバタイズする方法については、デルのサポートウェブサイト support.dell.com/manuals で『Microsoft System Center Configuration Manager 用 Dell Server Deployment Pack ユーザーズガイド』を参照してください。
 -  **メモ:** タスクシーケンスのアドバタイズを必須に設定することが必要です。
 -  **メモ:** 同一コレクションへの複数アドバタイズを必須にすると、実行するアドバタイズの選択は ConfigMgr までです。
12. Lifecycle Controller の起動メディアを作成します。詳細については、『[Lifecycle Controller 起動メディアの作成](#)』を参照してください。

ConfigMgr リポジトリからドライバを適用する

ConfigMgr リポジトリ からドライバを適用するには、以下の手順を実行します。

1. PXE / USB から再起動 の各ステップの前に、**起動順序の設定** ステップを手動で追加します。**起動順序の設定** ステップは、次回の起動で仮想 CD から起動するようにシステムに指示します。

起動順序の設定 ステップを手動で追加するには、以下の手順を実行します。

 - a. タスクシーケンスを右クリックして、**追加**→ **Dell 導入**→ **PowerEdge Server の設定** を選択します。
 - b. **設定操作タイプ** ドロップダウンリストから **起動順序** を選択します。
 - c. **操作** ドロップダウンリストから **設定** を選択します。
 - d. **設定ファイル / コマンドラインパラメータ** の新しいドロップダウンリストが表示されます。-nextboot=virtualcd.slot.1 を選択します。
 - e. **適用** を選択します。ステップの名前は **起動順序の設定** に変わります。
 - f. **起動順序の設定** ステップを選択し、PXE / USB から再起動 ステップの直前までドラッグします。
 - g. このプロセスを繰り返して、各 PXE / USB から再起動 ステップの前に **起動順序の設定** ステップを作成します。
 - h. **OK** をクリックしてタスクシーケンスを終了します。
2. ConfigMgr で、選択したオペレーティングシステムのドライバパッケージを適用します。ドライバパッケージの適用の詳細については、デルサポートサイト support.dell.com/manuals で『Microsoft System Center Configuration Manager 用 Dell Server Deployment Pack ユーザーズガイド』を参照してください。

リモートからのオペレーティングシステムの導入

リモートからオペレーティングシステムをコレクションに導入するには、以下の手順を実行します。

1. ConfigMgr コンソールの左ペインで、**コンピュータの管理**→ **コレクション** の順に選択し、**管理下 Dell Lifecycle Controllers(OS 不明)** を右クリックして **Dell Lifecycle Controller** → **Config ユーティリティの起動** を選択します。
2. Dell Lifecycle Controller 設定ユーティリティの左ペインから、**設定して WinPE から再起動** を選択します。
3. Lifecycle Controller **起動メディアを選択** の下から次のオプションのいずれかを 1 つ選択します。
 - i. **ネットワーク ISO から起動** - 指定した ISO から再起動します。
 - i. **ISO を vFlash にステージングして再起動** - ISO を vFlash にダウンロードして再起動します。
 - i. **vFlash から再起動 (ISO が vFlash 上にあることが必要)** - vFlash から再起動します。vFlash に ISO があることを確認します。
4. ISO をフォールバックステップにするには、**ネットワーク ISO をフォールバックとして使用** チェックボックスを選択します。
5. **参照** をクリックし、Dell Lifecycle Controller の起動メディアが保存されているパスを選択します。

 **メモ:** Lifecycle Controller の 起動メディアの場所としてデフォルトの共有ロケーションを設定した場合は、自動入力されます。詳細については、『[Lifecycle Controller 起動メディアのデフォルト共有ロケーションの設定](#)』を参照してください。

6. Dell Lifecycle Controller の起動メディアがある共有ロケーションにアクセスするためのユーザー名とパスワードを入力します。
7. **ターゲットコレクションを再起動** をクリックします。これによって、コレクション内の各システムの再起動ジョブが Task Viewer に送られます。キュー内に現在あるタスクとそれらの状態を表示するには、タスクバーにある **Dell アイコン** をクリックして Task Viewer を実行します。Task Viewer の詳細については、『[Task Viewer](#)』の項を参照してください。

iDRAC 搭載のシステムが WS-MAN コマンドを受信すると、Windows PE から再起動し、アドバタイズされたタスクシーケンスを実行します。その後、タスクシーケンスで作成した起動順序によっては、Lifecycle Controller の起動メディアから自動的に起動します。導入に成功すると、iDRAC 搭載システムは **コンピュータの管理** → **コレクション** → **すべての Dell Lifecycle Controller サーバー** の **管理下 Dell Lifecycle Controller(OS 導入済み)** に移動します。

追加機能

フォールバックステップ条件の表示

タスクシーケンスの作成中に、ConfigMgr 用 DLCI が自動的に条件 DriversNotAppliedFromLC を追加します。Lifecycle Controller からのドライバの適用に失敗すると、この条件がフォールバックステップとして使用されます。

 **メモ:** この条件は無効にしたり、削除したりしないでください。

この条件を表示するには、次の手順を使用します。

1. ConfigMgr コンソールの左ペインで、**コンピュータの管理** → **オペレーティングシステムの導入** → **タスクシーケンス** の順に選択します。
2. タスクシーケンスを右クリックして、**編集** をクリックします。**タスクシーケンスエディタ** が表示されます。
3. **ドライバパッケージの適用** または **ドライバの自動適用** を選択します。
4. **オプション** タブをクリックします。条件 DriversNotAppliedFromLC が表示されます。

Lifecycle Controller 起動メディアのデフォルト共有ロケーションの設定

Lifecycle Controller 起動メディアのデフォルト共有ロケーションを設定するには、以下の手順を実行します。

1. ConfigMgr コンソールの左ペインで、**システム設定マネージャ** → **サイトデータベース** → **サイト管理** → **<サイトサーバー名>** → **サイト設定** → **コンポーネントの設定** を選択します。
2. **コンポーネントの設定** ウィンドウで、**帯域外管理** を右クリックして **プロパティ** を選択します。**帯域外管理のプロパティ** ウィンドウが表示されます。
3. **Dell Lifecycle Controller** タブをクリックします。
4. カスタム Lifecycle Controller 起動メディアのデフォルト共有場所を変更するには、**カスタム Lifecycle Controller 起動メディアのデフォルト共有場所** の下で **変更** をクリックします。
5. **共有情報の変更** ウィンドウで、新しい共有名と共有パスを入力します。OK をクリックします。

これで Lifecycle Controller 起動メディアのデフォルト共有ロケーションを設定できました。

Lifecycle Controller との通信の検証

検出された iDRAC 搭載システムの資格情報を確認するには、以下の手順を実行します。

1. ConfigMgr コンソールの左ペインで、**システムセンター設定マネージャ** → **サイトデータベース** → **コンピュータの管理** → **コレクション** の順に選択し、**すべての Dell Lifecycle Controller サーバー** を右クリックして **Dell Lifecycle Controller 設定ユーティリティの起動** を選択します。
2. **Dell Lifecycle Controller 設定ユーティリティ** の左ペインで、**Lifecycle Controllers との通信の確認** を選択します。
3. **チェックの実行** をクリックして、検出されたシステムの iDRAC との通信を確認します。ネットワーク上で検出された iDRAC のリストと、その通信状態が表示されます。
4. 確認を終えたら、**CSVにエクスポート** をクリックして結果を CSV 形式でエクスポートします。ローカルドライブ上の場所を指定します。
または
クリップボードにコピー をクリックして、結果をクリップボードにコピーし、それをテキスト形式で保存します。ローカルドライブ上の場所を指定する必要はありません。

Lifecycle Controller のローカルユーザーアカウント資格情報の変更

iDRAC 搭載システム上で、次の手順を使って、ConfigMgr 用 Dell Lifecycle Controller Integration で設定された WS-MAN 資格情報の検証や変更を行います。

 **メモ:** Lifecycle Controller の資格情報と ConfigMgr データベースを同時に変更することをお勧めします。

Dell Lifecycle Controller の資格情報の変更

1. ConfigMgr コンソールの左ペインで、**システムセンター設定マネージャ? サイトデータベース→コンピュータの管理→コレクション**の順に選択し、**すべての Dell Lifecycle Controller サーバー**を右クリックして **Dell Lifecycle Controller → 設定ユーティリティの起動**を選択します。
2. Dell Lifecycle Controller **設定ユーティリティ**の左ペインで、**Lifecycle Controller の資格情報の変更**を選択します。
3. 現在のユーザー名とパスワードを入力してから、新しいユーザー名とパスワードを入力します。
4. **アップデート**をクリックします。ネットワーク上で検出された iDRAC のリストと、その通信状態が表示されます。
ユーザー名とパスワード資格情報を変更し、変更を示すために、一連の WS-MAN コマンドがコレクション内の iDRAC 搭載システムすべてに送信されます。
5. 更新を終えたら、CSVに**エクスポート**をクリックして結果を CSV 形式でエクスポートします。ローカルドライブ上の場所を指定します。
または
クリップボードにコピーをクリックして、結果をクリップボードにコピーし、それをテキスト形式で保存します。ローカルドライブ上の場所を指定する必要はありません。

ConfigMgr データベースの資格情報の変更

1. ConfigMgr コンソールの左ペインで、**システム設定マネージャ → サイトデータベース → サイト管理 → <サイトサーバー名> → サイト設定 → コンポーネントの設定**を選択します。
2. **コンポーネントの設定** ウィンドウで、**帯域外管理**を右クリックして **プロパティ**を選択します。**帯域外管理のプロパティ**ウィンドウが表示されます。
3. Dell Lifecycle Controller タブをクリックします。
4. Lifecycle コントローラ上の**ローカルユーザーアカウント**の下で **変更**をクリックします。
5. **新しいアカウント情報** ウィンドウで、新しいユーザー名と新しいパスワードを入力します。新しいパスワードを確認して **OK** をクリックします。

これで ConfigMgr データベースの新しいユーザー名とパスワードの資格情報を更新できました。

セキュリティの設定

自動検出に必要な iDRAC の出荷時発行 Dell クライアント証明書の検証

このセキュリティオプションは、検出中とハンドシェイクプロセスでプロビジョニングウェブサイトによって検出されたシステムに、iDRAC に導入されている出荷時発行の有効なクライアント証明書を要求します。この機能はデフォルトでは有効になっています。無効にするには、コマンドプロンプトで次のコマンドを実行します。

```
[プログラムファイル]\Dell\DPS\Bin\import.exe -CheckCertificate False
```

システム自動検出の事前承認

このセキュリティオプションは、検出されたシステムのサービスタグを、インポートした承認済みサービスタグのリストと照合します。承認済みのサービスタグをインポートするには、カンマ区切りのサービスタグ一覧が含まれたファイルを作成し、コマンドプロンプトから次のコマンドを実行して、そのファイルをインポートします。

```
[プログラムファイル]\Dell\DPS\Bin\import.exe -add [カンマ区切りのサービスタグのファイル]
```

このコマンドを実行すると、各サービスタグのレコードがリポジトリファイル [プログラムファイル]\Dell\DPS\Bin\Repository.xml に作成されます。

この機能はデフォルトでは無効になっています。この承認チェックを有効にするには、コマンドプロンプトを開いて次のコマンドを実行します。

```
[プログラムファイル]\Dell\DPS\bin\import.exe -CheckAuthorization False.
```

ConfigMgr 用 DLCI が使用するシステム管理資格情報の変更

DLCI が使用する ConfigMgr のシステム管理資格情報を変更するには、次のコマンドを使用します。

ユーザー名を設定するには

```
[プログラムファイル]\Dell\DPS\Bin\import.exe -CIuserID [新しい Console Integration Admin ユーザー ID]
```

パスワードを設定するには

```
[プログラムファイル]\Dell\DPS\Bin\import.exe -CIpassword [新しい Console Integration Admin パスワード]
```

グラフィカルユーザーインターフェースの使用

グラフィカルユーザーインターフェース (GUI) を使ってセキュリティ設定を変更することもできます。

GUI 画面を開くには、次のコマンドを使用します。

```
[プログラムファイル]\Dell\DPS\Bin\import.exe -DisplayUI
```

トラブルシューティング

IIS 用 Dell プロビジョニングウェブサービスの設定

インストール中に、Internet Information Services (IIS) 用 Dell プロビジョニングウェブサービスが自動設定されます。

この項では、IIS 用 Dell プロビジョニングウェブサービスを手動で設定する方法を説明します。

IIS 6.0 用 Dell プロビジョニングウェブサービスの設定

IIS 6 用 Dell プロビジョニングウェブサービスを設定するには、以下の手順を実行します。

1. ConfigMgr 用 DLCI をインストールした後、C:\Program Files\Dell\DPS\ProvisionWS ディレクトリに移動し、ProvisionWS フォルダとファイルが存在するか確認します。フォルダとファイルがない場合は、ConfigMgr 用 DLCI を再インストールします。
2. IIS マネージャで、**プロビジョニングウェブサイト**という新しいアプリケーションプールを作成し、それをウェブサイトに割り当てます。次の手順を使って、アプリケーションプールをプロビジョニングウェブサイトに割り当てます。
 - a. IIS マネージャで、**プロビジョニングウェブサイト** を右クリックして、**プロパティ** を選択します。
 - b. **ホームディレクトリ** タブをクリックします。
 - c. **アプリケーションプール** の下で、**プロビジョニングウェブサイト** を選択します。
3. IIS マネージャで、**プロビジョニングウェブサイト** を右クリックして、**プロパティ** を選択し、**ドキュメント** タブをクリックします。デフォルトドキュメントを handshake.asmx に設定し、その他のデフォルトドキュメントをすべて削除します。
4. 証明書 MMC プラグインを使用して、PS2.pfx 証明書をシステムの **個人** ストアにインストールします。
5. RootCA.pem をシステムの **信頼できるルート証明書局** ストアにインストールします。
6. SSL とクライアント証明書をウェブサイトに強制するには、以下の手順を実行します。
 - a. DellProvisioningServer 証明書をウェブサイトに割り当てます。
 - b. SSL ポートを 4433 に設定します。
 - c. 必要な SSL オプションを選択します。
 - d. 必要なクライアント証明書オプションを選択します。
 - e. 信頼リストに iDRAC RootCA のみの **証明書信頼リスト** を作成します。

 **メモ:** インストーラの実行後、証明書ファイル (SITE_PFX_PASSWORD = "fW7kd2G") は [ConfigMgr パス] \AdminUI\XmIStorage\Extensions\bin\Deployment\Dell\PowerEdge\LC\IISsetup\ にあります。

IIS 7.0 対応 Dell プロビジョニングウェブサービスの設定

Dell プロビジョニングウェブサービスを IIS 7 対応に設定するには、以下の手順を実行します。

1. Dell Server Deployment Pack がインストールされている ConfigMgr コンソールで、Dell_Lifecycle_Controller_Integration_1.1.0.msi を起動し、デフォルト値を選択します。**プロビジョニングウェブサイト** という新しい仮想ウェブサイトが作成されます。
2. **プロビジョニングウェブサイト** という新しいアプリケーションプールを作成し、それをウェブサイトに割り当てます。
3. **プロビジョニングウェブサイト** に次の手順を実行します。
 - a. システムが 64 ビットの実行システムで実行している場合は、**32 ビットのアプリケーションを有効にする** を True に設定します。
 - b. **管理下パイプラインモード** を **内蔵** に設定します。
 - c. **識別** を **ネットワークサービス** に設定します。

4. ウェブサイトで、デフォルトドキュメントを `handshake.asmx` に設定し、その他のデフォルトドキュメントをすべて削除します。

5. 証明書 MMC プラグインを使用して、`PS2.pfx` 証明書をシステムの **個人** ストアにインストールします。

6. `RootCA.pem` をシステムの **信頼できるルート認証局** ストアにインストールします。

7. `ProvisioningCTL.stl` 証明書信頼リスト ファイルを **中間証明書認証局** にインポートします。

8. インポートした **証明書信頼リスト** を適用する SSL 証明書設定を作成します。コマンドプロンプトを開き、次のコマンドを貼り付けます。

```
netsh http add sslcert ipport=0.0.0.0:4433 appid={6cb73250-820b-11de-8a39-0800200c9a66} certstorename=MY  
certhash=fbcc14993919d2cdd64cfed68579112c91c05027 sslctlstorename=CA sslctlididentifier="ProvisioningCTL"
```

9. SSL とクライアント証明書をウェブサイトに強制するには、以下の手順を実行します。

- ポートを 4433 に設定して、`DellProvisioningServer` 証明書を使用するには、SSL 結合を追加します。証明書が別のプログラムに割り当てられるという警告が表示されます。
- OK をクリックします。
- ポート 4431 の HTTP 結合を除去します。
- 必要な SSL オプションを選択します。
- 必要なクライアント証明書オプションを選択します。

10. **適用** をクリックします。

Dell 自動検出ネットワーク設定仕様

自動検出のエラーメッセージ、説明、および対応処置については、www.delltechcenter.com で「Dell Auto-Discovery Network Setup Specification」を参照してください。

アップグレード/修復に関する問題

ConfigMgr 用 DLC1 1.1 をインストールした後に Dell Server Deployment Pack をアップグレードまたは修復した場合は、次の手順を使用します。

- `CustomReboot.vbs` を `[ConfigMgrRoot]\AdminUI\XmlStorage\Extensions\Bin\Deployment\Dell\PowerEdge\LC\` から `[ConfigMgrRoot]\OSD\Lib\Packages\Deployment\Dell\PowerEdge\CustomReboot\` にコピーします。コピー先フォルダ内のファイルは上書きします。
- `DellPowerEdgeDeployment.xml` を `[ConfigMgrRoot]\AdminUI\XmlStorage\Extensions\Bin\Deployment\Dell\PowerEdge\LC\` から `[ConfigMgrRoot]\AdminUI\XmlStorage\Extensions\Bin\Deployment\Dell\PowerEdge\` にコピーします。コピー先フォルダ内のファイルは上書きします。

問題と対応処置

1. 問題: 共有ネットワークモードで設定されたシステムが再起動を繰り返す

対応処置: 共有ネットワークモードで設定された iDRAC 搭載システムにオペレーティングシステムを導入中、Windows PE 環境の起動がネットワークドライバで失敗し、タスクシーケンスに到達する前にシステムが再起動する場合があります。これは、ネットワークが IP アドレスを割り当てるのが遅すぎたからです。この問題を回避するには、ネットワークスイッチで **スバニングツリー** と **高速リンク** を有効にしてください。

1. 問題: システムがコレクションに表示されません。

対応処置: システムがコレクションに表示されない場合は、ログファイルに「Lifecycle Controller が使用中です」というエラーメッセージがあるか確認してください。このエラーメッセージがあれば、次の手順を実行します。

- システムが電源投入時自己診断テスト (POST) 状態でないことを確認します。システムは電源投入後、メディアを通してオペレーティングシステムから起動するまで POST 状態になります。
- システムの電源を切り、10 分待ってからコレクションに表示されるかを確認します。

- a. 問題: Lifecycle Controller **起動メディアの作成** オプションに失敗します。

対応処置: ソースコピー元とコピー先パスがローカルパスであることを確認してください。例: `C:\<フォルダ名>`

1. 問題: vFlash から **起動** オプションが失敗します。

対応処置: ラックとタワーサーバーでは、iDRAC version 1.3 以降のファームウェアが搭載されていることを確認してください。ブレードサーバーでは、iDRAC version 2.2 以降のファームウェアが搭載されていることを確認してください。

1. 問題: アドバタイズが ConfigMgr 用 DLC1 の WinPE から **再起動** 画面に表示されません。

対応処置: 導入するコレクションのものに対してアドバタイズしてください。親コレクションに対するアドバタイズは子コレクションには適用されません。

- 1 問題:Microsoft Windows 2008 R2 を ConfigMgr SP1 R2 からWindows Automated Installation Kit (Windows AIK) 1.1 を使って導入するとき、「操作に失敗しました。0X80070002。指定されたファイルが見つかりません」というエラーメッセージが表示されます。
- 対応処置:この問題は、Windows AIK 1.X で作成されたWindows PE 2.X ベースの起動イメージを使ってMicrosoft Windows 2008 R2 を導入する場合に発生します。Microsoft Windows 2008 R2 を導入するタスクシーケンスに、Windows AIK 2.X 以降で作成された Windows PE 3.0 以降ベースの起動イメージが使われていることを確認してください。詳細については、Microsoft TechNet サイト technet.microsoft.com を参照してください。
- 1 問題:「インストールされている BIOS バージョンはこの方法をサポートしていません」というエラーメッセージが DLCTaskManager.log に表示されます。
- 対応処置:システムの完全再起動を行って(POST 状態でない)、オペレーティングシステムを再導入します。
- 1 問題:「エラー:Lifecycle Controller が他のプロセスで使用中です」というエラーメッセージが dsp.log に表示されます。
- 対応処置:システムの iDRAC が POST 状態でないことを確認してください。
- 1 問題: 検索とハンドシェイクに失敗して、「[サーバー名] - ハンドシェイク - getCredentialsInternal(): [サーバー名]: 認証されていません: 資格情報が返されませんでした」というエラーメッセージが表示されます。
- 対応処置: サービスタグ名は、大文字と小文字が区別されます。import.exe ユーティリティを使ってインポートされたサービスタグ名が iDRAC GUI 内のサービスタグ名に一致していることを確認してください。
- 1 問題: Microsoft Windows Server 2003 を LC から**ドライバを適用** オプションを使って導入した場合に、青色画面やエラーが起きます。
- 対応処置: 以下の手順で問題を解決してください。
- タスクシーケンスを右クリックして、**編集** をクリックします。**タスクシーケンスエディタ** ウィンドウが開きます。
 - 追加→ドライバ→ドライバパッケージの適用** を選択します。
 - マストレージドライバ オプションを選択します。
 - SAS または PERC ドライバを選択します。
 - SAS または PERC ドライバをのモデル選択します。
 - タスクシーケンスを保存して、オペレーティングシステムを再導入します。
- a. 問題: 検出とハンドシェイク中、DLC.log に空の「サイトコード:」に続いて暗号化例外が表示されます。
- 対応処置: Dell Provisioning Server ユーザー権限を確認し、WBEMTest に接続してアカウントを確認してから、システムをリセットし、システムを再検出します。この問題は、ConfigMgr アクセス用に入力されたアカウントに WMI をクエリしてサイトコードを取得できないか、サイトサーバーまたはドメインコントロールへの認証がないときに発生します。
- 1 問題: 検出とハンドシェイク中に、「createDellCollections() 接続マネージャパラメータが空か、コレクション がまだ作成されていません」というメッセージが多発します。
- 対応処置: この問題は、ConfigMgr にアクセスするために入力されたアカウントに権限がない場合に発生します。設定権限の詳細については、「[Dell 自動検出ネットワーク設定仕様](#)」の項を参照してください。
- 1 問題: ConfigMgr の既存のアカウントからアカウントをクローンした場合、それは自動的に SMS_Admins グループに追加されません。
- 対応処置: そのアカウントがこのグループにあることを確認してください。Dell Provisioning Server ユーザー権限を確認し、WBEMTest に接続してアカウントを確認します。システムをリセットし、再検出します。
- 1 問題: User Account Controller (UAC) オプションをオンにして Microsoft Windows 2008 32 ビット SP2 に ConfigMgr 用 DLCI バージョン 1.1 をインストール中に、インストールが失敗します。
- 対応処置: UAC をオフにして、ConfigMgr 用 DLCI バージョン 1.1 を再インストールしてください。または、コマンドラインを右クリックして、**管理者として実行** を選択し、コマンドラインから ConfigMgr 用 DLCI バージョン 1.1 をインストールします。
- 1 問題: ConfigMgr 用 DLCI をアンインストールして再インストールした後、**アドバタイズ** オプションが既存のタスクシーケンスに表示されません。
- 対応処置: タスクシーケンスを編集用に関して、**適用** オプションを有効にしてから、**OK** をクリックします。**アドバタイズ** オプションが表示されます。
- 適用** オプションを有効にするには、次の手順に従います。
- タスクシーケンスを右クリックして、**編集** を選択します。
 - Windows PEで再起動** を選択します。**説明** セクションで、どれか 1 文字入力してから削除し、変更が保存されないようにします。
 - OK** をクリックします。これで **適用** オプションが有効になります。